

お別れの時期



みなさん、こんにちは。いよいよ27年度も終わりになりました。1月に新年を迎えたばかりかと思ったら、3ヶ月が経っただけで、また年度が終わります。なんだかとっても不思議ですね。

3月は物事が終わる時期というイメージがありませんか？私にとっては今年の3月は大きな節目となりました。

まず最初は長年通わせてもらった八百津保育園ととうとうお別れになります。長男が八百津保育園で最も小さい、3ヶ月で入園して以来、なんと！17年間続けて5人の子どもたちが通いました。子どもだけではなく、日本の教育システムをそれまでまったく知らなかった私も、保育園で育ててもらった気がします。日本に親がいない私が安心して子どもを預けて、勉強したり、働いたりすることができたので保育園は私にとってはとても大切な存在でした。保育園の行事も17年参加して来ましたが、園長先生をはじめ保育士のみなさんの一生懸命さが毎年伝わってきてとても楽しかったです。八百津保育園、長年大変お世話になりました。

もう一つの大きな節目は杉原千畝記念館とのお別れです。

3年間があっという間でした。リニューアルの準備から、展示の内容、訪れたお客さんの対応、記念館での仕事は私にとってはやりがいがありました。杉原さんの偉大さ、素晴らしさ、勇気を是非お客さんに伝えていきたいという強い気持ちで訪れた日本人やイスラエル人の団体に熱く語りました。今回、この場を借りて、みなさ

んにもハニトからの最後のメッセージを伝えたいです。

「杉原さんの真似はできません！」と思う方、たくさんいませんか？

もちろん、杉原さんと同じことをやろうと思えば、まず外交官になって、ビザを書く立場にならないといけません。でも、これらができたとしても一枚のビザで人の命が助かるあの当時の状況に戻らなければなりません。

しかし、杉原精神は本当にあのビザの数なのか？と思うと私は違うと思います。私にとって杉原精神は目の前にいる困っている人に手を差し伸べることがすべてです。杉原さんはユダヤ人がビザを頼みに来た時に「よし！分かった！2,139枚書くぞ！6,000人の命を救うぞ！」と思った訳ではありません。（記念館にある彼が書いた手記を読めばどれ程悩んだことがわかります。ヒーローではなく一人の人間の姿が強く伝わります。ちなみにこの手記が私の一番好きな展示物で、おすすめです。）杉原さんは彼の前にいた一人一人のユダヤ人を同じ人間として見て、接したところが最も素晴らしいと思います。みなさんにもそこだけ真似すれば、まさに杉原さんと一緒ということを言いたいです。

ハニトからのみなさんへの最後のメッセージです。どうぞみなさん、元気で4月から自分にたてた目標に向かって、頑張ってください。私も頑張ります。

3年間読んでくださって、本当にありがとうございました。